

【重度障がい児支援 花色】 事業者むけ<各職員>自己評価表

株式会社 湧心

(令和4年4月～令和5年3月迄)

在職職員(正・パ) 10名中 9名回答

チェック項目	はい ○	わからない (無回答)	いいえ ×	職員間での意見【A】	【A】についての対策・方法
環境・体制整備					
利用定員が密な状態にならず、個々のスペースが確保されているか。	100%			・ マットの設置位置や配線類の処理等、環境改善を今後も行っていく必要がある。	「今後も月に1度“危険予知訓練”を取り入れ全体の環境から注意点の見直しを行っていきます。また、配線類はマットの下を通す等の工夫を行っていきます。」
職員の配置数は適切ですか。 (看護師・療法士・保育士・児発管・管理者共に1名以上)	100%				
必要な備品や、バリアフリー化の配慮が適切になされていますか。	100%				
業務改善					
業務改善を進めるために、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画していますか。	60%	10%	30%	<ul style="list-style-type: none"> 「評価」と「改善策」が不十分でいっぱなしがいくつかある気がします。支援改善・学習会・感染対策もPDCAサイクルを習慣化したいです。 「どのように関わるかを日々、頭に入れて支援でき、その事を記録にできているのか」というと、まだ改善の 	<p>「不十分と思われる所を職員間で話し合う機会をつくりたいです。」</p> <p>「より具体的に実行する必要があると感じます。」</p> <p>「“どのように関わるか”は、支援計画や情報提供文書を参考にし、不明な事は個々で意見を上げていく必要があると</p>

【重度障がい児支援 花色】 事業者むけ<各職員>自己評価表

株式会社 湧心

(令和4年4月～令和5年3月迄)

				必要ある気がします。	思います。」 「記録用紙に見直しが必要であれば、検討をする必要性を感じます。また他事業所の記録用紙も参考にしたいです。」
保護者の意向や前年度のアンケートを把握し、業務改善につなげていますか。	80%	10%	10%	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いや検証は出来ていますが、年度途中にも検討する必要あり。 	「今後は年の途中にも話し合いの場を設けていきます。(1月の予定)」
第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげていますか。	70%	20%	10%	<ul style="list-style-type: none"> 第三者評価で他の重症児医ケア児事業所との違いについて聞いてみたい。 医療的ケア児なので医師による評価が必要になります。 	「医療的ケア児をみる事業所なので、医療職による評価でなければ実現的ではないと考えます。医師による評価は、今年度も評価済みになっております。」 「8月に第三者委員(近隣住民による)の評価を実施予定。」
職員の資質の向上にむけた研修の機会を確保していますか。	100%			<ul style="list-style-type: none"> 虐待について児相等の職員の話を知りたい。 姿勢保持について知りたい。 重症児デイでの活動や療育を見学にいきたい。 災害研修は、地域との交流もあるので毎年行くと良いと思う。 	「姿勢保持研修:札幌の木村先生 4月、虐待・災害研修:厚生病院に依頼予定で計画をたててました。」
適切な支援の提供					
面接等でアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、「個別支援計	100%				

画」が作成されていますか。					
「個別支援計画」には①発達支援②家族支援③地域支援で示す支援内容から、必要な項目が適切に選択され、具体的な支援内容が設定され作成されていますか。	100%			<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメントもされ、個別支援計画が出来ていますが、“具体的な目標”がないので日々の記録に落としづらいです。 ・ 日頃支援している一部が目標になるのではなく、新たな挑戦にむけた段階的な目標に介入し、振り返りたいと思います。 	<p>「児発管に計画をたててもらう目標だけではなく、看護、保育、リハビリの各専門分野で具体的な目標をたてる必要があるのではないのでしょうか。」</p> <p>「各専門職の中で、どう介入できるか、それぞれで話し合い、目標を設定してどのように介入できるかを、話し合い実行もしくは、それをもとに計画に組み込みたいと思います。」</p>
看護職・療法士・保育士はそれぞれにおいて、「個別支援計画」に沿った支援を行い評価されていますか。	90%	10%		<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援を行った後の「評価」⇒「改善」⇒「再評価」がまだまだです。 ・ 個別で、もう少し目的にあった介入ができると思います。 	<p>「日々の支援も評価も、具体的な目標を明確にし、今日できていたのか振り返る事の積み重ねが必要ではないでしょうか。」</p>
活動プログラムの立案や支援が固定化されないように、全職員が参画し行えていますか。	70%	30%		<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士さんにまかせっきりになっている気がしませんか。 	<p>「ミーティング時に一緒に考える時間を設けていきたいです。」</p> <p>「活動がうまくいっている他事業所などのプログラム等を見たり教わったりしたいです。(看護師はどんな風に工夫していくべきか、わからないので。)」</p> <p>「保育士を中心にしながらも、一緒に考</p>

【重度障がい児支援 花色】 事業者むけ<各職員>自己評価表

株式会社 湧心

(令和4年4月～令和5年3月迄)

					えていきたいと思っています。」
活動プログラムが固定化しないように工夫をしていますか。	100%				
各専門職それぞれが、平日・休日・長期休暇に応じて課題をきめ、細やかに設定して支援を行えていますか。	50%	50%		<ul style="list-style-type: none"> 一般的にいう「夏休みの楽しみ」や「自由研究」のように、この期間だけの課題というと、今の支援課題で良いか悩むところです。 	<p>「平日・休日・長期休暇でこども達の滞在時間が違うので、関わり方は異なり支援できていると思います。あるいは、保護者様が花色に主として何を求めているのか(療育・預かり・医ケア等)によっても関わり方は変わってくると思うので、利用者様のニーズを知る事ができたらと思います。」</p> <p>「長期休みで、時間も多くとれるので、支援者からの一方通行の課題ではなく、個々の子どもに相談して活動課題を決めても良いと思います。」</p> <p>「“長期休みだから”という課題や目標を各専門職や、支援計画として改めて捉えているということ、ちょっと出来ないと思います。改めたいです。」</p>
子どもの状況に応じて「個別活動」と「集団活動」を適宜組み合わせ「個別支援計画」が具体的支援内容で記載され作成されていますか。	100%			<ul style="list-style-type: none"> 「個別」か「集団」かと、はっきりと分かれていないが、友達との関わり等の目標は、はっきりしていると思う。 	「注入後の支援については、個別で対応を行ってはいますが、より充実していくキッカケにしていきたいです。」

				<ul style="list-style-type: none"> ・ 注入時間は、食事中ではあるがその後の休憩時間も含めると、1時間以上は静かに動かず待っていないてはいけなく、その時間の支援があっても良いと思う。 	
支援開始前（朝礼時）には職員間で打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担を確認していますか。	100%			<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝礼での打合せはできており、当日の災害役割担当も伝え合えて良い環境と思う。 	
支援終了後には、支援の振り返りを全職員で行い、気づいた点を共有していますか。	60%	30%	10%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有は、とても良くされていると思います。 ・ 夕方はパート職不在や送迎等もあり、その時間ではできませんが、支援の振り返りや情報共有は行えていると思います。 ・ 全職員で毎日出来ていませんが、記録で共有はできています。 ・ 毎日、支援の振り返りを全員するのは難しいと思います。ミーティングでその子をみんなで振り返るのが当てはまるなら「わからない」ではなく「できている」だと思う。 	<p>「全職員では時間が合わずにできていないが、その日のことは必要に応じて必要な人と話を行ってはおり、情報共有もできていると考えていました。また、ミーティング時に全員での振り返りに活発な意見がでるようになると良いですね。」</p> <p>「日々の振り返りについては、各専門分野間で必ず行い、次回利用日に繋げていくようにしていきたいです</p> <p>「情報共有ということで、より詳しく記録に残していく必要があると思う。“わからない”は、たまに来るパートさんには丁寧な引継ぎなのかな？と思います。」</p>

【重度障がい児支援 花色】 事業者むけ<各職員>自己評価表

株式会社 湧心

(令和4年4月～令和5年3月迄)

日々の支援に正しく記録をとることを徹底し、支援の検証や改善につなげていますか。	80%	10%	10%	・ 「検証」「改善」というと、不十分かなという気もします。	「全職員での検証は、時間があわず難しいのですが、その日の事は職種ごとに話せていると思います。」
定期的にモニタリングを行い、個々の「個別支援計画」の見直しの必要性を判断していますか。	100%				
児童デイサービスガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っていますか。	80%	10%	10%	・ “ガイドラインの基本活動”の組み合わせかな？と思う時もありますが、個々に沿った療育活動を組み合わせながら行っていると思います。	「ガイドラインを読込む事がおざなりになっている所もあるとおもいます。何となく読んだ事があるのではなく、支援者としての責任を含め、ガイドラインに沿った活動を行い、どんな記録を残し、成長発達を後押ししていくかを、みんなで考えたいです。」
保護者や関係機関との連携					
担当者会議には、その子どもの状況に精通した最もふさわしい職員が参画していますか。	90%	10%		・ パート職なので、どうやって参加者を決めているかはわかりません。	「基本的には児発管+必要職員になっています。その時により、児発管+看護師、療法士、管理者という形での参画しており、今後も継続していく予定です。」
関係機関と情報共有をし、トラブル発生時の連絡等の調整も含めて適切に行っていますか。	100%				
学校との情報共有、連絡調整（送迎時の対応等）を適切に行っているか	100%				

【重度障がい児支援 花色】 事業者むけ<各職員>自己評価表

株式会社 湧心

(令和4年4月～令和5年3月迄)

医療的ケア児を受け入れるにあたって、主治医と連絡調整を整えていますか。	100%			<ul style="list-style-type: none"> 連携はもっと良くなれると思います。(厚生病院等) 	「今のままで良い」と思わずに、利用児の成長や将来をみて、より良い連携方法を今後も模索していきたいです。」
在宅支援のために地域の関係機関と連絡体制を整えて支援していますか。	100%				
学校や幼稚園、他デイ等との情報共有をし、相互理解に努めていますか。また、就学や就労時には支援内容の情報を提供していますか。	100%				
専門機関に所属、連携をし、助言や研修を積極的に受けていますか。	80%	10%	10%		所属は、旭児連、日本小児科学会、日本小児在宅医療支援研究会、日本重症心身障害学会、北海道重症心身障害医療研究会、日本子ども虐待防止学会等に所属し、研修や専門的な助言を得ており、これからも ZOOM 研修等は個々の職員も視聴できるよう継続していきます。
障がいのない子どもたちと交流や活動する機会を作っていますか。		40%	60%	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍なので、かえって感染リスクが高くなると思います。 コロナ禍でもあり、出来ていなかったが「やりたい」という思いはありました。来年度は少しずつ行っていきます。 	「感染」リスクがやはり心配な点ではありますが。行う際には、交流をする側の年齢等を考えながらも交流の必要性も考え、保護者様の意向に沿いながら来年度以降考えていきたいと思します。

【重度障がい児支援 花色】 事業者むけ<各職員>自己評価表

株式会社 湧心

(令和4年4月～令和5年3月迄)

日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、発達の状況や課題について共通理解をもってコミュニケーションをとっていますか。	90%		10%		「共通理解をもち、コミュニケーションをとっていく必要があり、“目標の明確化”を保護者様とも具体化し、意見を伝え合える面談づくりを努力していきます。」
保護者の対応力の向上を図る観点から、家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング）の支援を行っていますか。（医療的ケア、療育、関わり方、リハビリを含みます。）	70%	20%	10%	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活動作・介助方法等、少しずつ行っているのが良いと思います。 保護者対応力向上のトレーニングは、対象者が限られている。もっと全体に行うものではないでしょうか。 	<p>「同じ職種間で話し合いをし、少しでも改善策があれば保護者へ声をかけています。継続的には出来ていないので、引き続き行っていきたいです。」</p> <p>「保護者対応力向上のトレーニングの機会を設置することにはまだ力不足があるように思うため、研修等の検討をしていく必要だと考えます。」</p>
保護者への説明責任等					
運営規定、利用者負担額等について情報発信をし、丁寧な説明を行っていますか。	90%		10%	<ul style="list-style-type: none"> 報酬単価が変わった時他、規定の変更や委員会活動等、お便りで連絡しており、理解されていると思う。 	
児童発達支援ガイドラインの提供すべき支援のねらいに基づき、「個別支援計画書」を示しながら、個々の支援内容の説明を行い、保護者から「個別支援計画」の同意を得ていますか。	100%				

【重度障がい児支援 花色】 事業者むけ<各職員>自己評価表

株式会社 湧心

(令和4年4月～令和5年3月迄)

保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行う体制がありますか。	100%				
父母会もしくは父母交流会の活動の支援をしたり、保護者の集うイベントを開催する等により、保護者同士の連携を後押ししていますか。		40%	60%	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士が関われるイベントは4月以降は、できそうな気もします。コロナ感染に気を付けながら可能性を検討したいです。 	「参観日他、人数制限を行いつつも始めていきます。また、イベント活動も企画・実行していきたいと考えています。」
子どもや保護者からの相談や申し入れに対して迅速かつ丁寧に対応していますか。	100%				
定期的に通信等を発行。またHP等を利用して活動概要や行事予定等の情報を発信していますか。	100%				
個人情報の取り扱いに十分注意していますか。	100%				
子どもの意思の疎通や情報伝達のための配慮や努力をしていますか。	100%			<ul style="list-style-type: none"> もっと意思決定支援については、学んでいきたいです。 	
事業所の行事に地域住民を招待したり、ボランティアの受入、実習生の受入等を行い、地域に開かれた事業運営を行っているか。	90%	10%		<ul style="list-style-type: none"> ボランティアはコロナ禍なので、あえて入れておりませんでした。 保育士実習生を受入れました。 	
非常時の対応					
緊急時マニュアル、感染症マニュアル等を策定し、発生を想定した訓練を実施し、その内容を保護者に周知していますか。	100%			<ul style="list-style-type: none"> 災害対策委員会で行えていると思います。 感染対策委員会で行えていると思います。 	「BCPは災害、感染それぞれの委員会で作成できましたが、今後の見直しの方が大切になると思います。どのように時間をつくっていくかも課題です。」

【重度障がい児支援 花色】 事業者むけ<各職員>自己評価表

株式会社 湧心

(令和4年4月～令和5年3月迄)

定期的に避難訓練・救出訓練・心肺蘇生訓練等を行っていますか。	100%			<ul style="list-style-type: none"> 災害対策委員会で行えていると思います。 看護職による蘇生訓練は、頻回に行っていると思います。 	「地域での交流活動を増やして、“おたがいきま”で支え合っていける事業所になっていきたいです。」
災害等に際して業務継続計画を策定していますか。また、その見直しをしていますか。	90%		10%	<ul style="list-style-type: none"> BCPの策定は出来ているが、見直しや検証はまだできていない。 	～2つ前の内容と同じです～
「個別避難計画」を保護者と共に策定し、共有していますか。また、見直しをしていますか。	50%	25%	25%	<ul style="list-style-type: none"> 様式もできており、来年度は作成していきます。 	「避難が必要なタイミングは急にやってくると思うので、計画は常に確認・共有を行って行くことが必要だと思います。河川の氾濫、雪が積もっている時期の災害避難はどうするか等も具体的に考えていく必要があると思います。」 「ハザードマップ」での緊急性の高い方から作成を行っていきます。保護者様への話しかける切っ掛けや、それぞれのご近所さんにも協力を得やすくなるための方法も検討していきたいです。」
子どもの体調把握や身体状況を事前に確認していますか。また、その記録がありますか。	100%				
食物等アレルギーのある子どもについて、全職員での把握（当日利用前の再確認等）を行い、医師の指示書に基づく対応を徹底されていますか。	100%				

【重度障がい児支援 花色】 事業者むけ<各職員>自己評価表

株式会社 湧心

(令和4年4月～令和5年3月迄)

ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有、検証していますか。	100%			<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハットは虐待防止委員会で、もう少し整え検証を行う必要があると思います。 	「ヒヤリハットについては、虐待委員会とは“別”の委員会を立ち上げる事も検討してもよいのではないかと思います。」
虐待を防止するため、適切な対応をしていますか。	100%				
どのような場合に身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、十分な研修と説明を行った上で、個別支援計画に記載していますか。	80%	10%	10%	<ul style="list-style-type: none"> 経鼻胃経管栄養のカテーテル抜去や、呼吸器の管を外す等にあたり、今後は身体拘束が必要と考え、保護者様とも話し合いを増やしていく必要があります。また、身体拘束を行わないための計画を話し合っていく必要あり。 	<p>「呼吸器の管を外すことに対して、“身体拘束”と考えるのは疑問がある気がします。」</p> <p>「お子様にとって、ひっぱり抜く経鼻胃経管栄養用のカテーテルをさわらない工夫も必要ではありますが、送迎中等は保護者に説明し、支援計画に今後も入れていく事が必要と考えます。」</p> <p>「顔をひっかく等の理由での手袋については、支援中は発達のためにも脱ぐ事が必要であり、その認識はどのような子にも持って、すべての支援者が関わっていきたいと思います。」</p>

今年も、職員間での振り返りでは活発な意見があがっております。また、各専門職では支援を行いつつも「さらに、より良い支援をしよう!」という思いも伝わってくる「対策」等が出てきました。この声を今年度中に形化できるように努力していきたいと思っております。